

# リスクへの視点が「当たり前」となる 組織風土をめざす



古田 祥 [ふるた・しょう]

介護老人保健施設夢プラスワン（千葉県）  
リハビリテーション科 副主任

## はじめに

私は、2007年4月に当施設に入職し、理学療法士としてのキャリアをスタートさせ、在職19年目になります。入職2年目より、介護事故対策委員会に所属し、当時施設で唯一リスクマネジャーを取得していた介護看護師長の推薦で、2014年にリスクマネジャーを取得し、現在は介護事故以外のリスクに対してもマネジメント業務を行っております。

大層なタイトルをつけましたが、格好良い話ができるわけではございません(笑)。私がリスクマネジャーとして働かなかで、考えていること、取り組んでいること、展望について、悩みも交えながら、ご紹介できればと思っております。「あるある」だったり、「ヒントになった」だったり、読む方の何かしら琴線に触れられれば幸いです。

## 施設紹介

当施設がある千葉県香取市は、千葉県北東部にあり、利根川水運で栄えた歴史をもち、小江戸と呼ばれる<sup>きわら</sup>佐原の古いまち並みが魅力です。人口は約6.6万人で減少傾向にあり、高齢化率は約37%と県平均より高い水準で推移し、少子高齢化が進行しているまちです。

施設自体は、入所定員80名、通所定員100名、訪問リハビリも展開している在宅強化型の老健施設で、施設内に居宅介護支援事業所も併設しております。

法人の理念は、「ひとりひとりが夢をもって過ごせる施設」「ひとりひとりが夢をもって働ける施設」を掲

げ、ご利用者およびそのご家族に加え施設スタッフと施設に関係する人たち一人ひとりが夢をもって暮らしていけるよう、日々精進しております。

## 業務について

私の主な業務は、入所、通所リハビリ、訪問リハビリにおける理学療法の提供です。サービス区分ごとに専属を配置しない体制なので、老健施設におけるリハビリ専門職の役割を俯瞰して取り組んでいます。ここ数年は、特に「エビデンスに基づく標準的介入方法」をテーマに実践および後進の指導に注力しています。

その他に、前述の介護事故対策委員（現在は自然災害BCPも含めた安全対策委員へ統合）、身体拘束廃止・虐待防止委員、教育委員、職員待遇改善委員、広報委員を施設内では担当しています。

外部活動としては、有志による市内リハビリ専門職の協議会を通じて、市の地域リハビリテーション支援事業（地域ケア会議、通いの場の体操指導など）の委託を受けたり、ここ数年は千葉県老健協会の広報委員として活動する機会もいただいたりと、多岐にわたっております。

入職時はダメ職員だった私が、現在多くの業務を担当させてもらっているのは、「来た仕事は断らない」をモットーに周囲に助けられながら地道に一つひとつやってきた結果だと思います。

そのときは結果が出なかった仕事でも、他の仕事で活かせるヒントになり花開く場合があること、人の縁がさらなる縁を生み新たな仕事に出会えることを多く経験させてもらいました。